防災教育

原子力防災学習　～原発立地地元中学校における実践等～

見附市立南中学校
阿部　昭比古（３年度）

新潟県の教員として働くようになり今年で１２年目となる。１５年前の福島原発事故の影響で郡山市より自主的に避難をしてきた経緯がある。

福島の現実が忘れ去られないよう、また、新潟県のこれからを考える上で、福島の現状を新潟県の人たちに知ってほしいと思い続けている。そして伝え続けることが自身の使命だと思っている。

新潟県に赴任して以来、勤務したすべての学校で「原子力防災学習」を自ら担当して実施している。新潟県採用９年目で原発立地の地元である原発から6.5ｋｍの柏崎市立第二中学校に赴任し、初めて原発立地地元中学校において原子力防災学習を行うこととなった。２年目と３年目に実施、いずれも「地震」からの２次災害としての「原子力災害」を想定し、２段階避難の訓練後に学習の時間を設けた。特に３年目にあたる年度は、いよいよ再稼働が現実となりそうなタイミングであったため、これまでとは内容を大きく変えて実施した。

実践をする度に、生徒のみならず職員からも「そうだったのか。知らなかった。」といった反応が見られたことは大きな成果であると思う。しかし、それだけ一般の情報では真実が伝えられていないという現実を目の当たりにされていることにもなる。広く伝えたいという気持ちは強いが、いかにして機会を増やしていけるかが大きな課題として残り続けている。